第 38 回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」審査結果

第 38 回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」は、2026 年 6 月 8 日から 9 月 14 日の期間、自然の中に出かけた時に発見・体験したことや学んだことを描いた作品を募集しました。

絵画コンテストは、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）が、子どもたちが水辺へ出かけ、新たな発見・体験をする機会を創出するとともに、表現することを通じて感性を育むことをめざし実施しているものです。

全国各地の幼稚園、保育園、小学校、絵画教室などから、合計 8,064 点という多くの作品が寄せられました。（昨年 5,580 点）

10 月 14 日、15 日に開催した 1 次審査会では 329 点が選ばれ、さらに 2 次審査会を通過した 150 点の作品からは、10 月 27 日に開催した最終審査会において、入賞作品 22 点が選ばれました。

入賞作品最終審査会

日時：2026 年 10 月 27 日(火)

場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）

入賞作品は、2 次審査会を通過した 150 点の作品の中から、「文部科学大臣賞」「国土交通大臣賞」「環境大臣賞」「農林水産大臣賞」、「特別賞」、「優秀賞」の合計 22 点が選ばれました。



審査員の皆様



審査委員長 国広富之画伯




審査風景

国土交通大臣賞

岡　咲良（岡山県倉敷市　小学校 3 年）



ながしそうめん

　友だちといっしょに竹のコップとはしをつくって、ながしそうめんをしました。たのしかったです。

選考者のコメント

　加地 淳志様（国土交通省 港湾局 海洋・環境課 推進官）

　素晴らしい作品が多く、選考は難しかったのですが、最も心に残ったこの作品を選びました。まず、美しい色使いが印象的で、流しそうめんをこのアングルから描いた構図にも惹かれました。登場する人たちの表情は、大げさではなく自然で、楽しさが生き生きと表現されています。その場の楽しい雰囲気がリアルに伝わってくる点が、選定の決め手となりました。

特別賞

審査員長賞

伊藤 快斗（広島県三次市　小学校 1 年）



散歩すると虫さんと会えて「わくわく♡」

　お父さんが仕事から帰ってくると散歩によく行きます。この前、大きなバッタと会ってワクワクしました。とても嬉しかったのでバッタを 1 番大きく描きました。お仕事しているアリさんも見つけて「がんばれ！」と応援しました。散歩するとたくさんの発見ができて楽しいです。

選考者のコメント

国広 富之様（俳優・画家）

大　胆に描かれたバッタと、繊細に表現されたアリやトンボから、その日に出会った生き物を描きたいという思いが伝わります。特に、心に強く残ったバッタを大きく、周りの生き物を小さく描く表現に、

作者の素直な感性を感じました。家族との散歩で見つけた自然を題材に、身近な場所にも豊かな出会いがあるという発見の喜びが伝わる点を評価しました。

日本マリーナ･ビーチ協会 会長賞

井上 まひろ（兵庫県西宮市　義務教育学校 3 年）



はじめてのヨット

　ヨットに一人で乗って　こわい気持ちになった。　一人では不安だったけど、友達となら楽しかった。

選考者のコメント

山下 雅人様（一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会 常任理事）

　ヨットハーバーを題材にした絵と、添えられたコメントに惹かれました。ヨットに乗って海を楽しむ中では、時に怖さを感じることもあるでしょう。しかし、海でのさまざまな体験は、将来、海に出たり、水辺で遊んだりすることにつながると思います。子どもの未来への可能性や夢を感じ、海に親しむ子どもが増えてほしいという願いを込めて選びました。